

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果に基づく学力向上の取組について

令和5年12月

湯河原町教育委員会

教育委員会では、令和5年4月に行われました本調査の結果を分析しました。それを踏まえた学力向上の取組みに、ご理解とご協力をお願いするとともに、次に分析の概要をお知らせします。
町立小学校6年生（150人） 町立中学校3年生（135人）

<調査内容>

教科に関する調査 【小学校】国語、算数 【中学校】国語、数学、英語
質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校の指導充実のポイント

学校に置ける指導充実のポイントのいくつかを次のようにまとめました。それぞれの学校では、これらのポイントを踏まえて、さらに児童生徒の状況に合わせて指導の充実に取り組みます。

- ◆計画的に学習等に取り組む姿勢を育む。
- ◆複数の解法や他者の意見に興味を示す姿勢を育む。（多様性の理解と認知）
- ◆教科を学習する目的や意義を理解させる。

保護者の皆様へお願い

子どもたちには、『学んで成長しよう』とする思いがあります。

このことを大切にして、現在の学年の学習に限らず、将来にわたりお子様の学習が充実し、健やかに成長されるよう、次のことをお願いします。

- ♥ 昨年度に比べ、湯河原町内小学生の家庭学習の時間が増加しました。また、学校以外で計画的に学習に取り組む子どもたちの数も増えました。今後、この家庭学習定着の傾向が継続するために、今一度、家庭内でテレビゲームをする時間とスマートフォン等でSNSや動画を視聴する時間のルールを話し合い、お子様が自主的に学習できる時間を確保してください。
- ♥ テストの点数や成績などの『結果』に対して誉めたり叱ったりするより、日頃の学習の様子を見守り、「〇〇をよくやっているね。」など、お子様の『取り組み』や『努力』に関する前向きな言葉をかけて「学ぶ意欲」を育みましょう。
- ♥ 家族や仲間と一緒に、生活体験や自然体験を行い、その時の喜怒哀楽といった感情を共有しましょう。また、様々な体験活動を通じて、異年齢と積極的に関わり様々な価値観に触れ、多様性について理解し、多様性を認められる姿勢を育んでください。
- ♥ 日ごろの会話を通して、順序よく筋道立てて話すなど、表現力を伸ばすようにしましょう。自分の思いや考えを話す機会を作るよう「あなたはと思う？」
「それでどうなった？」などの問いかけをしましょう。さらに、自分の思いや考えを日記などに書くことを勧めましょう。



子どもたちのよさ

《教科について》

(国語 小学校)

- ・「情報の扱いに関する事項」の区分は、全国平均に達している。

(国語 中学校)

- ・「話すこと・聞くこと」の問題は、正解率が全国平均と同等の値。

(英語 中学校)

- ・「英語の勉強は好きか」の問いに、「当てはまる」と「どちらかという当てはまる」の合算値は、本町 72.4%で、全国平均 51.9%より+20.5%pt と大幅に上回った。

※ 以下、2つのパーセントの差を%pt (パーセントポイント) を単位として表記する。

《学び全般について》

(小学校)

- ・『平日の1日に勉強する時間』を問う質問に、「30分より少ない」及び「全くしない」の合算は、15.8%と昨年度と比較して大幅に減少した。全国平均は16.0%、同等の値だった。
- ・『家で自分で計画を立てて勉強しているか』の問いに、「よくしている」と答えた児童の割合は26.5%と昨年度に比べ大幅に増加した。また、全国平均28.7%に近い割合を示した。

(中学校)

- ・『学校に行くのは楽しいか』の問いに、「当てはまる」45.5%で全国平均43.3%より高い数値で、「どちらかという当てはまる」との合算も82.8%で全国平均81.8%を上回った。
- ・『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか』の問いに、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は85.9%、全国平均77.6%より8.3%pt高い数値を示した。
- ・『困りごとや不安を先生や学校の大人に相談できるか』の問いに、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合71.7%で全国平均66.4%を上回った。

子どもたちの課題

《教科について》

(国語・算数 小学校)

- ・全国平均と比較して無解答率が高い。無回答の原因は「粘り強さの欠如」だけでなく、「問題文の読み取りが困難」であることや「問題を解く時間不足」などの課題が考えられる。

《学び全般について》

(小学校)

- ・「国語の勉強は大切か」の問いに、「当てはまる」と答えた児童の割合は58.9%、全国は69.1%、「算数の勉強は大切か」の問いに、「当てはまる」と答えた児童の割合は64.2%、全国は75.3%と、両教科ともに全国値を下回った。過去3年間のデータ分析から、「学びの目的や意義を理解しているかどうか」が学習の定着に関与している可能性が高い」と考察できたので、全国平均値を目標に、学校、家庭において、折に触れ学習の大切さについて子どもたちと話し合う必要がある。

(中学校)

- ・『平日の1日に授業以外で勉強する時間』の問いに、「全くしない」と答えた生徒の割合は17.9%、昨年度の16.9%とほぼ同等の値で、平日の家庭学習習慣は広がっていないように思われる。
- ・『休日の1日に家庭等で勉強する時間』の問いに、「全くしない」と答えた生徒の割合は34.3%、昨年度の36.6%ほぼ同等の値で、休日の家庭学習習慣も広がっていないように思われる。
- ・昨年と同様に、計画性が身につけている生徒ほど各教科の正答率が高い傾向がみられることから、「計画的な学習の定着」が学力を向上させる糸口の一つと考えられる。